

平成28年度第1回御前崎市総合教育会議議事録

日 時 平成28年5月16日（月）
午前9時00分～10時15分
会 場 御前崎市役所 301会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育委員長あいさつ
- 4 協 議
 - （1）御前崎市教育振興基本計画（大綱）について
 - （2）今後の開催予定について
- 5 閉 会

御前崎市総合教育会議委員

職 名	氏 名	備 考
市 長	柳 澤 重 夫	
副 市 長	澤 入 芳 男	
教育委員長	吉 村 勝	
教 育 委 員	伊 藤 博 之	
教 育 委 員	田 代 富 美 子	
教 育 委 員	紅 林 幸 枝	
教 育 長	篠 田 暁 美	

事 務 局

職 名	氏 名	備 考
教 育 部 長	伊 村 衛	教育総務課長兼務
総 務 部 長	植 田 直 仁	
市 民 部 長	河 原 崎 悦 男	
総 務 課 長	増 田 正 行	
学校教育課長	長 谷 川 延 明	
社会教育課長	村 松 学	
教育総務課 課 長 補 佐	河 原 崎 聡 信	

1 開 会

○司会 それでは、おはようございます。

最初に、挨拶を交わしますので、ご起立をお願いいたします。

(起 立)

○司会 よろしくお願ひします。

(相互に礼)

○司会 ご着席ください。

それでは、ただいまから、平成28年度第1回総合教育会議を開催させていただきます。

進行を務めさせていただきます、教育委員会伊村でございます。よろしくお願いいたします。

2 市長あいさつ

○司会 それでは、開会に当たりまして市長からご挨拶をお願いいたします。

○市長（柳澤重夫） 皆さん、おはようございます。一番茶の刈取りも既に終わりました、野山の新緑も日増しに緑が濃くなってきた感じがいたします。温かい南の風とともに季節が足早にやってきた、こんな感じがするわけですが、今日は1回目の御前崎市総合教育会議、大変お忙しい中、こうしてお時間をいただきまして、まことにありがとうございます。

既にご案内のように、御前崎市も子供たちの夢と希望があふれるまち御前崎、こういったものを将来像に掲げまして進んでいるところでございます。そういった中で、ここにもございますように、スクラムスクールプラン、こういったものを掲げて将来の御前崎の子供たちのために一生懸命取り組む皆様方に変感謝を申し上げるところでございます。

そういった中で、きょうは1回目の総合教育会議、よろしくお願い申し上げまして、一言だけご挨拶させていただきます。本当に今日はご苦労さまでございます。

○司会 ありがとうございます。

3 教育委員長あいさつ

○司会 それでは、続きまして吉村教育委員長からご挨拶をお願いいたします。

○教育委員長（吉村 勝） おはようございます。冒頭司会のほうから話がありましたように、28年度の第1回目の総合教育会議ということでございます。私たち教育委員会も2年ほど前からスクラムというようなことを合い言葉に、人づくりはスクラム御前崎、そういうことで取り組んできて、それが少しずつ地域の中にも、勿論学校の中にも浸透しつつあって、それが機能し始めてきているなということを感じ取っております。そういう中で、折しも御前崎市のほうは第2次の総合計画を今年からスタートさせるということで、その目標が今市長さんからもありましたように、子供に視点を当てたキャッチフレーズということで、大変私どもは意気に感じているところであります。是非、行政の皆さんと手を取り合いながら、教育がより効率的に機能をして、子供たち或いは生涯学習、大人の学習にもそれが波及して行って、御前崎の人づくりが順調に育っていけばいいなと、こんなことを感じております。是非、今日の会議の部分で、今後とも1年間よろしくお願いをしたいと思います。

ありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。

4 協議

(1) 御前崎市教育振興基本計画（大綱）について

○司会 それでは、早速次第に沿いまして協議に移らせていただきます。

まずは、御前崎市教育振興基本計画につきましてご協議をお願いいたします。本計画につきましては、平成27年度に3回の総合教育会議を開催し、その中で前市長と教育委員の皆様で協議がなされ、合意を得ているところでございますけれども、今回新市長にその内容を説明はさせていただきまして、ご質問やご意見をいただき、改めて合意をいただいた上で御前崎市の教育振興基本計画を定め、その要点を教育大綱として公表をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、教育長から改めてご説明をお願いいたします。

○教育長（篠田曉美） それでは、教育振興基本計画に基づきまして御前崎の実態、それから今後の動向について説明をさせていただきます。よろしくお願い致します。

28年度の御前崎の教育は、第2次総合計画に基づきまして、「郷土を愛し未来を創る人づくり」ということで進めてまいりましたが、これはもう2年目になります。これまで27年度まで基本理念をこのような文章化してきたわけですが、もう少しはっきりさせたいということから、スクラムプランは3年目になりますけれども、ここのところをはっきりさせるために今から説明させていただきます。

特に、特徴は、ゼロ歳から18歳までのスクラムスクールプラン、ここのところで乳幼児教育から学校教育まで、共通理解と観の共有を図ってまいりました。このスクラムということが3年目に当たるわけですが、どのぐらい小学校、中学校、園の教職員が知っているか、理解しているかということアンケートをとりました。大方青いところまでが、ほぼこの推進していることを知っているところで、大方ほとんどの教職員が知っていると答えてはいるのですが、まだ十分とは言っておりません。

次に、どのぐらい理解しているか。茶色のところまで、赤いところまで、ここまでが理解している。しかし、十分というのはこの青です。やはり園においては、まだ十分理解している、そのところまで行きませんでした。

それから、スクラムの事業をテレビや新聞等で目にしたことがあるかということについては、やはり先生方忙しいのか、夕方のニュース等、なかなかテレビ等を見ない傾向もありまして、今までの理解しているか、知っているかに比べ少し低い傾向にあります。しかしながら、保、幼、小、中、高で行ってきたスクラムで行ってきたよいと思われることなのではございますけれども、小中学校の先生方によりましては、96人の先生方がこの保、幼、小、中、高までのスクラム研究を設定したことがよいと答えていました。やはり今まで異校種の授業の参観を頻繁に行うですとか、異校種の先生方とのつながりを知るですとか、そういったことがなかなかできなかったものですが、こうした異校種の先生方の交流を通して先生方が仲よくなったので、小中学校の実態、それから園の実態を交流することができたと思う。大方の人が答えておりました。

また、市全体で御前崎の子供をこうしていきたいとか、それからスクラムグットマナーで中学生が来ているとか、もうみんなでスクラムを組んでいくという、市全体でスクラムを組んでいくということに対しても、大変好意的に捉えておりました。

課題としては、やはり一般の教職員の先生方が地域やまち全体ともしっかりつながるということが課題ではなかろうかと思っております。管理職までは、地域に意識しているのですが、一般の教職員の先生方がもっと地域、まち全体ということを考えていきたいということが課題です。

園におきましては、やはり園と小中高が連携をとりながら育てていくという意識が、同じように高まっているということです。また、このスクラム研修を園でも公開して、同じように那須先生に来ていただいたことにより、やっぱり園の研修が大変高まっているということでした。

それから、特に園の先生方に大きいのは、やっぱり小学校の先生に園の様子を見てもらえた、こういうことがあるのは大変うれしいと。このつながりがうれしいということでした。課題としては、やっぱり研修が取れてしまったという、そういう感覚を持っている先生方がいるということです。アンケートから、全体を通してやはりこのスクラムスクールプランは、今後もやっていく必要があると思

っています。同じような気持ちで、御前崎市の子供をどう育てていくかということを話し合えるいい機会になっていると思っています。

課題ですが、小中学校は、やはり園教育をもっと理解すること。小中学校は、池新田高校の内容や生徒の動向について、やっぱりもう少し関心を高めたい。池新田高校が全体の65%ぐらい御前崎市から行っているということを考えると、池新田高校に対しての関心を寄せることが大事である。園は、自分の研修にとどまらず、もう少し先を見通した教育活動を深めていきたいというのが課題です。また、研修が負担とならないような楽しい研修方法を園としては努力していただきたい。それから、園、小中学校とも、やはり職員の意識の中で地域や家庭を巻き込むという、こういった意識はまだ低いので、やはり地域にどれだけ目を向けていくか。一般の教職員がそういうことをしていくことが大事だと思っています。また、教育委員会としましては、市全体、あるいは地域への発信が、やはり足りなかったと思います。もう少し発信を工夫していくことが大事だと考えました。

以上をもとにして、御前崎の教育振興基本計画をもう一度見直したわけですが、これからの御前崎市における本市の教育の現状と課題を少しご説明します。教育振興計画の中にグラフもありますので、そちらもあわせてごらんになっていただけたらと思います。

まず、児童生徒の推移ですが、やはり年々減っているのは、全国的に見ても県を見ても同じですが、特に中学校においては、合併当時から32年には25%の減となります。にもかかわらず、不登校児童の出現率ですが、下が青いのが小学校です。上が中学校です。小学校は大体横ばいの傾向ですが、徐々に徐々にふえているというのがこの傾向です。ところが、中学校は、本当に本市においては高い値を示してしまして、県においても全国的においても3.6という数字は、大変高い数字です。現在、もう4月からいろいろな大学の先生方にそれぞれの中学校に入っているのですが、その先生方に子供たちの様子を見ていただいたところ、やはりこれは学校だけの問題ではないと、子供の様子を見たときに、学校だけでは片づけられない根っこの部分の問題が非常に大きいということを感想を持ったということをお聞きいたしました。学校だけでは片づけられないこの不登校問題について、どのように本市では考えていくかということが大きな問題であります。

また、特別支援学級の児童生徒数の在籍数についても、就学支援が進んでいるためか、大変増加の傾向を示しています。これも県下で特別支援学校においても、もう本当に満杯状態であるということをお聞きしておりますので、同じような傾向を示しているようであります。

本市の特徴として、この外国籍児童ですが、小学校においては、外国籍児童が年々減っているわけですが、中学校において増加していること。この点線の中学校において、特に日本語指導を要する児童が増加していることについて大変問題であります。中学校において、やはり基礎ができていない、日本語の基礎ができていない、日本語の勉強ができていないことにおいて、日本語指導を要する児童が在籍しているということは、大変困難をきわめると。その子にとっても困り感を抱えるのではないかなと思います。

また、母子、父子家庭についても、少子化、核家族化が進んでおりますが、全体の27年度には1割強を超える児童生徒が母子、父子家庭でありまして、特に中学校では13%、母子、父子家庭があります。年々増加の傾向にあります。

それでは、児童生徒の様子なのですが、小中学校において全国学力状況調査の3年経過を見てみました。この将来の夢や目標を持っているかということに関して、不登校児童は多いわけですがけれども、でも子供たちは決して悲観的ではなく、将来に対して夢や目標を持っており、また自分にはよいところがあるということを答えておりますので、全国に比べて決して子供たちが悲観的ではなく、明るく頑張ろうとする心が御前崎市の子供にあると捉えております。しかしながら、この特化した算数の勉強、数学の勉強につきまして、勉強が好きかということに関しては、小学校が全国より上に行っているのですが、中学校においては、若干低い傾向を示すように思われます。この算数、数学の授業の内容がわかるかということに対しては、小学校は全国平均並みか上を行くのですが、中学校において問題なのは、全国平均がこの点線なのですが、ここのところに中学校が本市では位置しているというこ

とです。これは、中学校のやり方が悪いとかそういうことではなくて、小学校は好きで内容がわかると答えているものの、やはり基本的な基礎の算数の勉強がどのくらいできているかということについては、もう一度小学校とも見直さなければならぬし、こうしたことも中学校においてこうした傾向があらわれるというのは、静岡県とは逆の傾向をあらわしていますので、本市の課題であると思っています。

中学生で、家で授業の予習、復習をしているかということについては、昨年度ぐんと上がったのは、自分学習を5つの小学校、2つの中学校で統一して取り上げてくれたために、昨年度よりぐっと上がったように思います。全体的には予習、復習という家庭学習において、もう少し伸びが必要かと思います。ところが、この家庭でどうかということを見たときに、27年度の1日当たりのゲームをする時間が2時間未満の人というのは、小学校は全国平均よりよい傾向です。ところが、中学校に2時間未満の人はぐっと減ってしまいまして、やはり先ほどの数学の学習と同様に、ゲームをする時間が非常に長いというのが気になります。また、スマホやメールをする時間においても、中学校は全国平均より下がってしまうということから、この家庭での生活というのをもう少し考えていかなければならないと思います。

この家庭での生活の結果から、生活状況で朝食とか寝る時間とか起きる時間については、ほとんど全国平均よりいい結果があらわれているのですが、歯科健診にだけでちょっと見ましたところ、1.6歳児の歯科健診の虫歯の状況ですが、真ん中のところが御前崎市です。近隣に比べ非常に高い数値をあらわしてしまいました。また、3歳児によっても歯科健診の結果が虫歯の平均をあらわしています。この小中学校の学年別虫歯の有病率ですが、4年生までは全国平均より虫歯は少ないのですが、5年生になるとぐんと全国平均を超えてしまう。これについては、フッ素をしないからだというような問題もありますが、フッ素をしている園の時代がもって小学校4年生まで何とかもつ。ところが、小学校5年生からぐっと平均より落ちるといえるのは、やはり家庭的にも、先ほどもスマホの件とあわせて、基本的な生活習慣というものをもう少し家庭に訴えていかないと、いろいろな意味で家庭の基本ということが大事になってくるかと思っています。

小中学生の全国体力テストについては、そちらに書いてありますように、大変いい結果をあらわしていました。スポ少が盛んな地域ならではのこともあるかと思っています。

最後に、今住んでいる地域の行事に参加しているかということと、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるかということにつきましては、これについては、3年経過で見たところ、やはり地域の方々の本当によい働きかけとご努力で、全国平均よりかなり上回っておりまして、地域の行事には参加しているという結果があらわれていました。

こうしたことから、やはり家庭での生活からあわせますと、乳幼児から社会に出るまでの一貫性を持たせたり、不登校が多いことから、多くの人たちとの人間関係を大切にする教育をするということ。御前崎の子供は、御前崎のみんなで子供を育てるということ、そういうことを鑑みまして、スクラム御前崎を進めてまいりました。第2次総合計画に合わせまして、「子どもたちの夢と希望があふれるまち御前崎」ということで、先ほど吉村教育委員長さんから、子供たちに視点を合わせてくださったということから、スクラム御前崎という、御前崎の教育について「郷土を愛し未来を創る人づくり」と掲げ、子供たちの姿として、具体的な姿を4点掲げました。これは、御前崎ならではの今までのことを鑑みまして、この井の中の蛙にとどまらず、高い志や夢を持って生きる子、グローバルな世界に対応できる子、主体的に生き続ける子を1つ。それから2つ目に、確かな学力が必要ですので、これを点数だけにとどまらず、生涯にわたって自分をよりよく生きるための学び続ける子、そして3つ目に、不登校児童等のことを考え、他者と豊かにかかわる子、最後に、社会とかかわっていく子、これが今まで余り強調されなかったのですが、今後この御前崎というまちを考え、日本というまちを考え、そして世界を考えて、18歳から選挙権が出ることから、社会とかかわっていく、そういった子供たちをつくっていくことが大事かと考えております。キーワードはスクラムで、基本方針は、先ほどから申しておりますように、園、学校、家庭、地域、行政がスクラムを組んで協働して人づくりを

進めること。もう一つは、生涯にわたって学び続け、互いに高め合うことができる人づくりを進めていきたいと思っています。

これまで子供たちに目指す姿というのはあったのですが、あえてここで目指す園、学校の姿、目指す教職員の姿、目指す保護者の姿、目指す地域の姿、目指す行政の姿を取り入れました。目指す園、学校の姿は、とにかく信頼される園、学校であること、地域の力をかりること。教職員は、子供への愛情を持ち続ける教職員ですが、特に2番目の小中学校で行いたいことが、これからの社会を生き抜くために資質能力を中教審の論点整理から、御前崎に必要な力を3点考えました。大きなA3の用紙の黄色い部分です。学校教育の黄色の部分で、基礎基本の知識技能と、それから2つ目に思考力、想像力、3つ目に主体的に人、社会とかかわる力、これがつく事業を目指してほしいと小中学校の先生方には話しております。3点目はスクラムスクールプランを積極的に取り組むこと。

家庭ですが、今後家庭にかなりのお願いをしていきたいのは、やはり深い愛情を注いで責任を持ってほしいということ。そして、基本的な生活習慣、学習習慣を身につけてほしいということ、そして笑顔と対話のある家庭で、今この家庭についてはコミュニティースクール、御前崎型スクラムスクール運営協議会を立ち上げておりまして、今年度、特に浜岡中学校区では、スマホについて取り上げたいという考えが出ておりますので、そちらのスクラムスクール運営協議会、コミュニティースクールのほうから提案ができるよう期待をしています。また、地域においては、学校の先生方をお願いしたのは、地域をお願いするだけではなく、地域の行事に出かけてほしいということをお願いいたしました。

最後に、行政の姿です。スクラムスクールプランを積極的に推進して、やはりリーダーとなる行政でなくてはならないこと。それから、特に教育委員会においては、PDCAサイクルを必ず実施し、市民のために前向きに捉えていく行政でありたいということ。こうしたことから、これが構想図になります。

そして、最後にA3のところに書き込みましたが、一応10年を目指していますが、10年では大きく時代が変わってしまいますので、1年ごとに見直しを図ってまいりたいと思っております。

簡単ですが以上です。よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

ただいま教育長から改めまして説明をさせていただきました。この教育振興基本計画につきまして、市長さんからご意見やご質問、ご感想等ございましたらよろしくお願いいたします。

○市長（柳澤重夫） 今教育長からいろんな説明をいただきました。こういう私も子どもの教育につきましては、本当に家庭であるとか学校教育、こういったものについて物すごく関心があります。そういった中で今のタイプですね、さまざま説明していただきまして、本当に子供たちの教育でありますとか家庭、そういったことにも踏み込んだ、とてもいい機会ではないかなというふうに思っております。

私がいつも思っているのは、学力の向上はもちろんですが、ただその小学校、中学校、年齢に応じて社会性も同時に身につけていく。こういった教育をぜひしてほしいというふうにずっと思っております。そういった中であって、今回見ますと、その年齢ごとに忍耐力でありますとか創造性、協調性、あとコミュニケーション能力ですね、そういったものも同時にやっていくということでもありますので、ぜひ実行してほしいというふうに思っております。

同時に、教育が終わった段階で社会が求めている人材、それと今の教育が合致しているのかどうか、そういうところでも検証しながら、御前崎の子供は、すぐ社会に出ても社会性が身につけて、すばらしい御前崎の子供たち、そういった教育の資質をお願いしたいというふうに思っています。今、社会のほうで求める人材は、昔と変わっているのですね、今。社会が企業が求める人材というのは。そういった面もありますので、今企業はどのような人材を求めているのか、こういったものに視点を当てながら社会教育もしていこうというような努力をしてもらえば大変ありがたいなというふうに思っております。教育長がPDCAのそういったものを使いながらやっていくということですので、これはその都度見直ししながら実現していただければ我々もいい教育ができるのではないのではないかなという

ふうに思っております。

それから、その中で、先生ですね、現場の先生ですけれども、先生が教育に懸ける情熱といいますか、子ども達に懸ける先生の情熱、そういったものも先生の指導も含めまして、大変よりよい教育が施していただければ大変ありがたいというふうに思っております。そういった中で、スクラムスクールプランですが、これは園から小中高まで基礎となっております。スクラムスクールプランの推進とありますが、私もこれにつきましては大賛成であります。

そういった中で、もう一つは、今回の選挙戦で訴えましたのが、もうちょっと踏み込んで、私は家庭も学校も地域も、そして企業も老人会でありますとか中年層でありますとか若い世代でありますとか、企業、こういったものに全て踏み込んで子育て支援、子供育成条例、こういったものをつくりたいというふうに思って、今回やってきましたので、子供でありますとか子育て、こういった支援条例をつくりたいということで、申し上げてきましたので、その辺もこれから皆さんにご相談をしていきたいというふうに思っておりますので、皆さんで今回のこの大綱ですね、これはぜひ相当いいものが盛り込まれておりますので、ぜひ実践していきたいというふうに思います。

あと、家庭教育、これは学校ではなかなか家庭教育までは踏み込めないかもしれませんが、学校へ子供さんを預けたらもう私たちにも任せてくれよ、先生方はそういった態度で臨んでいただきたい。同時に、家庭の中ではできない教育ってありますので、そういったルールでありますとかマナーでありますとか、そういったものは家庭の中でしっかりとやってほしいと、こういったことも学校の教育の現場から家庭のほうに言っていただければいいのではないかなと思っております。ぜひとも先生方が一生懸命頑張るような環境をつくってほしいというふうに思います。そんなところです。感じたところは。

○司会 ありがとうございます。

市長のご感想ということで、おおむねこのプラン、そういったものにご賛同をいただけたというような形でご理解をさせていただきました。その中で、本当に社会で育っていくために、時代の求めに応じた子供たちになっていくのが一番大事なのかなと感じました。

今年度から副市長さんにも本会にご参加をいただくようになりました。副市長さんからも何かご感想、ご意見等ございましたらお願いいたします。

○副市長（澤入芳男） おはようございます。今回から参加させていただきましたけれども、初めて市の教育振興計画、基本計画をご説明いただいたわけでございますけれども、もともと御前崎市スクラムスクールプランという形の中で進めていただいているわけでございますけれども、傘下になりますと園から小中学校まで、これは教育委員会傘下にあるわけでございますけれども、やはり一番高校を取り込むということが、いろいろ大変な部分だろうというふうに思ってございますけれども、県教委との問題もあるでしょうけれども、地元の池新田高校をいかにして大事に、地域に溶け込んでいただけるかということは、大変大きな課題だろうというふうに思ってございますし、もう一つは、やはり教育長さんから話もございましたように、地域をいかに巻き込んでいくか、取り込んでいくかという問題が大きな課題だろうと思います。それでなくてもなかなか御前崎の場合につきましては、地域、家庭、特に家庭が無関心とは言いませんけれども、そういった意味では薄いのかなというふうに思っておりますので、やはり家庭、地域を取り込むこととして池新田高校を上手にといいですか、いかに取り込んでいくかということが大きな課題になってくるのだろうというふうに思っておりますので、ぜひその辺は頑張っていただきたいと思います。

以上です。

○司会 ありがとうございます。

この後の進め方ですけれども、特にこの振興計画、これについてのご意見につきましては、おおむねこの方向性で合意をいただけたということで、ご理解をさせていただいてよろしいでしょうか。

あとは、それ以外の今後の御前崎の教育に向けて、本当にこれ以外のものでご意見等がございましたら、本当に自由な意見交換という形で進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いい

いたします。

委員長さん、何かお願いできますでしょうか。

吉村委員長さん。

○教育委員長（吉村 勝） 今市長からもお話いただいたスクラムスクールのやり方とか、あるいはスクラム御前崎の人材を育成するという、そういうことが賛成だというようなお言葉いただきまして、大変ありがたいなと思います。今先ほど教育長さんが言われたように、学校の中で一番私は課題になっているのは、やっぱり不登校の子供たちが、結構いるわけですね、こういう子供たちをどういうように指導していったらいいのか、あるいはまだ就学前の子供たちが小学校、やはり不登校にならないような、そういうためにはどういう手を打っていったらいいのかなということをいろいろ考えているのですが、やっぱり家庭とか社会環境が大きく変化したという、それに追いついていけない子供たち、あるいは言わせていただければ、いろんな組織体があるのかなと。特に家庭の問題も1つは大きいところですよ。そんなことをちょっと、どうしていったらいいかなと。

それから、さっきちょっと出た話、やっぱり夢を持っている子供というか、そういう子が志というか、そういうものをきちっと持っていればこういうような今の不登校の問題も若干は解決していくのかなと思いますし、育てる意識というのか、子供を育てようという意識を大人がどれだけ持っているかということもかかわってくるのではないかなと。学校とか家庭というのは子供を育てるという、そういう感覚というのは、いつも持っているわけです。当たり前のことですから、持っているわけです。やっぱり今言う地域とか行政とか企業、あえて言わせていただければ企業です。そういうところまで地域の子供を育てるという意識がどこかに、今までも何もなかったということではなくて、今まで以上にそういうような意識を持っていかなければ、子供たちの姿も変わってくるのではないかなということもちょっと思っているのですが、そのためのスクラムプランということでやっているものですから、その辺をやったり私たちがもっと力を入れてPRしていく必要があるだろうなということを振り返って考えているのですが、そんなことで不登校の問題は一長一短、いろんな画一的には指導ができないものですから、非常に難しいところあるのですけれども、全体的に言えば、やっぱり今言ったような家庭とか学校とか地域とか行政とか企業も含めた中で子供を育てようという意識をもっと御前崎の人たちが持っていきたいなと、こういうことで考えています。

○司会 お願いします。

○市長（柳澤重夫） 今吉村さんが言った不登校、子供、必ずしも家庭ばかりではなくて、学校と家庭、いろいろあると思う、地域はそれほどかかわっていないと思う。子供というのはすごい感性が強いものだから、学校へ行って先生が嫌となると子供なんか本当に嫌になってしまうね、学校が。朝になると腹が痛いだの文句を言って行かない。保健室に連れ込んだこともある。先生が代わったりすると何となくいってしまうのだよね、もう平気で。そういったことであるので、家庭ももちろんあると思う。これは先生の教育指導方針、その子供に対するものもあると思う。ですが、先生と子供は信頼関係、これがまず第一だと思う、教育の現場では。ですので、先生は私は怒ってもいいと思う。怒ってもいい。怒ってその子供にとってその先生の教育の情熱、それが子供にどう伝わるかだけ。子供に伝わらなかったらもう教育は成り立たないと思うのだよ、先生との信頼関係が。それを先生はぜひ実践をしていただきたい。それをやれば、先生が子供と信頼関係ができれば、子供たちも不登校、なかにはあるかもしれないが、相当改善されるのではないかなと思うのです、私は。

いずれにしても、人をつくるのが教育なものなので、教育は人によって、教育者も人間であるし。

○教育委員長（吉村 勝） いいですか、今のお話、もちろん私教師のその熱意というか、そういうものが非常に根底になくては、今のような問題は解決していかないのだけれども、その前に子供の生育歴の中でというような問題もあるわけですよ。そういうところを今言うスクラム御前崎で、今ちょっと言った地域や行政や企業まで含めて、どこかで声をかけて済ませていくというか、体制の問題もあろうかと思うのだけれども、何かそこらの問題も若干あるように思うのです。育ちの中での問題といいますか。

○市長（柳澤重夫） ただ幼児教育でゼロ歳から保育園へ預ける人もあるよね。3歳まで自分で育てて幼稚園か、幾つもある、そういった子どもとのスキンシップというか触れ合いね、すごくその子供の脳に影響するだってね、子供のときに。例えば、3歳まで自分で子供をそばへ置いて、だっこしながらおっぱい飲んだりする、その子供の脳とゼロ歳からずっとやってしまう。全然違うらしいね、その子供の感じ方がというか。そういったものが影響するかもしれないし、だからといってそれをやめなさいというわけにはいかないし、だからそういった根底から今先生が言ったようなものを持って育てる、子供もあるのだよね、実際のところ。ですので、それをどうして改善していくか、途中段階で。本当に難しいところね。

○司会 本当に不登校につながっていくのではないかなというような、そういう小さなときからの家庭の愛情を持った育て方とか、そういったご意見が今出ているのかと思います。その点についてということでも結構ですし、それ以外でも結構ですが、伊藤委員さん、何かご意見ございますでしょうか。

○教育委員（伊藤博之） 私もやっぱり最近不登校が多いので、すごく心配もしているわけですが、やっぱりその一つの原因というのは、第一小学校なんかでも表れていると思うのですけれども、やっぱり家庭の問題、親と子供のかかわり方の問題なんかがやっぱり大きくかかわっているのではないかなと思います。

それで、この地域で企業が育てていかななくてはいけない、それとか人材を育てなくてはいけないという問題につきましては、やはり小さいときからの幼児教育というのですか、1歳から例えば6歳ぐらいまでに基本的なものを家庭で教え込んでいけるような、そういうようなシステムづくりがこの御前崎市の教育の中でできていけば、もっとそういったものも解決をしていくのではないかな。地道に一つ一つ小さいときから細かいことをやっていって、それで大きなものに結びついていけるのではないかな、そんなようなことにちょっと今いろんなお話を聞いていて、ちょっと考えてしまったのですが、そういうことをしていけば、またそういった意味でも違うのではないかなというようなことを思いました。

以上です。

○司会 田代委員さん、いかがでしょうか。

○教育委員（田代富美子） 私はちょっと違う視点から、家庭、自分が親だという立場になって考えてみたときに、やっぱり子供の学校へ元気に、園に行ってきますと言って行ってほしいというのが一番大きな願いだと思うのです。だけれども、それがうまく行かなくなったときというのは、親御さんもやっぱり本当に悩みを持って抱えていると思うのですけれども、今回このところにそれぞれの目指す姿がここに書かれていますよね。私これこそ実はもっとうんとPRをしていく大事なことだなというふうに思います。というのは、家庭が一番上に来ているではないですか。これが根幹かなとも思うのですけれども、子供に深い愛情を注ぐということと、子育てに責任を持つというキーワードは、これ愛情だと思うのです。園、学校も教職員も地域も行政も家庭も、全部根幹は未来をつくってくれる子供に対してどれだけ愛情を持っているか、そこに物凄いかかわってくることだと思うのですよ。特に家庭の場合は、今市長さんがおっしゃったように、ゼロ歳からどうしても園に預けなければいけないという立場の方もいらっしゃるかもしれません。なくなく放す方もいるだろうし、いろいろだとは思いますが、その根幹にやっぱり子供に対する、本当に可愛いという愛情というものを持つようにしていくには、本来は親が子供に対してしていくことで、周りの人たちがいろいろという問題とは違うと思うのですけれども、私今孫が3人目が何時間か前に生まれたばかりで、母親というのは1カ月間というのは、血の道と言われるぐらい重要な道で、それは親が助けてやる期間だと思うのです。そのときに、私は子供が20になっても30になっても40になっても、やっぱり子供は子供だと、我が子なのだと。それぞれの年代に応じた助け方があるのではないかなと、そうやってやっぱり親という立場の者が自分の子を育てていかななくてはいけないという、やっぱり責任があるのだらうなということを今ひしひしと感じているところなのです。責任を果たすには、実は物凄いエネルギーがいるということ。ある部分を犠牲にしてまでも責任を果たさなくてはいけないという部分もあるというよう

な思いで今いるものですから、この全部の姿を見たときに、根幹は本当に愛情にあるのだなということ強く感じているし、それをやっぱりいろんな形で、繰り返し形を変えながらも、うんとPRをしていく必要があるなど。きょうのこの会議にまおまおの皆さんや記者の皆さんも来てくださっているのですけれども、もっとこの大切さ、それぞれの分野の目指す姿の大切さをもっとPRをしていくすごく必要があるなどということをまずは感じております。

○市長（柳澤重夫） 本当に人というのは、子供のときから愛されないと愛することをしないのだよね、人を。愛されて初めて人を愛することを覚えるということで、子供の時分に、まず先生は親だものね、まず第一は。その親御さんから本当に愛情を愛されているなということ覚えないと、人に愛情を注げないというような、そういう人になってしまうわけだから。ですので、本当に家庭教育の中の愛情というか、親の。これは、本当に一番大事だと思う。それをやっておきさえすればもうそんなに、ちょっと踏み外してももとへ戻る復元力というか、人にはそういう復元力あると思うのだよね。とどまるというか、それがなくなってしまう、それが無いと。ですので、そういった家庭教育の中の愛情というのは、本当に大切だと思う。

昔浜岡町のときに標語というか、いつもそこにドアのところに張ってあった、「子育ては厳しく優しく温かく」、浜岡町でつくった、標語を。それをドアのところへ、子供の時分に張ってあったのを覚えている。だから、そんなものも思い出しながらしたのだけれども、いつだか昔、相良の平田寺の住職が社会教育のときにこんなことを言った。子育ては、学校を出てから、社会人になってから、社会へ通用する人間になって初めて子育てが成功するだよ。学校を卒業させたから、もうそれで子育てが終わりではないよ、社会人になって、社会にどれだけ通用する人になって初めて子育てが成功したのだよということを書いていて、確かにそのとおりだと、そのとき思ったのだけれども。

○司会 本当に家庭における教育の大切さというのが改めて皆さんからご意見がなされているかと思えます。

紅林委員さん。

○教育委員（紅林幸枝） やっぱりその家庭教育力の低さということが、私4年間教育委員やらせていただいて、常に言われていたところで、どうしたらいいのかなと4年間考えて4年間過ぎてしまったのですけれども、それはこれからやっぱりスクラムを組んで上げていく方向でやっていくのですが、それプラスやっぱり子供たちがすごく着実にいろんなことが、浜中なんかを見ていると、目に見えてわかるのです。それで子供たちと移動教育委員会とかで話し合いをしたりとか、子供たち同士が小学生と中学生が話し合いをしているのを見たときに、子供たちに任せてもいいのかなという部分をすごく感じたりしたのです。だから、例えば不登校の問題も、学校とか地域だけでとか教職員だけで考えるのではなく、子供たち自身でこの不登校の問題をどうしたらいいのか、例えばスマホの問題も、子供たち同士でルールを決めたりとか、そして子供たちが頑張っている姿を逆に親に発信していけば、親も子供たちがこれだけ頑張っているのだから私たちも頑張らなければなどというふうに思ってくればいいのかなと思っています。

○教育委員（田代富美子） 不登校の問題を子供たち自身が問題として話し合う場というのはあるのですか。

○教育長（篠田曉美） 不登校の中身なのですからけれども、やはり時代とともに、第一小の経験からいくと、やっぱり昔の不登校の理由とは、やはり少し違っているのが現状です。昔のように、学校が嫌いとか、先生と合わないとか、そういう子もいますが、とても複雑で、核家族が増えてきて、離婚家庭が増えてきて、母子家庭もすごく増えていて、お母さんが精神的にまいっている家庭から経済的になかなか成り立たないとか、それから職業もままならないという、そういう家庭も物凄く増えていまして、学校へ行きたいのだけれども、母親が心配とか、家庭が心配とか、離れられない何か複雑なそこに心境があって行けない場合、或いは小さいころから人を信用することができないお子さん、それが思春期になると出てくるのですが、小さいころはなかなかわからなくて、そういった昔の不登校の子供の単純な場合とは、少しかなり変わってきていまして、先生方も本当によく努力して、

この1カ月半の間も浜岡中学校の先生方の様子を見てみると、1人の子に対して教頭、それから前担任、それから部活の担任、それから今の担任、入れかわり立ちかわり子供と会いに行ったり、保護者と会いに行ったり、面接をしたりという物凄い努力をしているのです。何とかとどめているという、それを夕方かお母さんが帰ってくる8時以降とか、そういった努力をしているのですが、なかなか複雑な問題がありまして、社会の複雑さとともに、子供たちの心理的な面も複雑になっている。そういった面を先ほど吉村先生も市長さんもおっしゃいましたけれども、いかに教育だけのスクラムではやり切れない部分があって、市の行政としても、いかにこのスクラムを組んで小さいころからサポートしていくかということをみんなして話し合う機会を持っていけないと、なかなかこの市の問題が解決できないのかなと思っています。御前崎市に勤めている先生方というのは、ほとんどが他市からの先生方で、半分以上他市からなのです。それは、御前崎市在住の先生方では御前崎市を賄えないので、他市から来ている先生、他市へまた戻っていく先生方ですが、御前崎市の先生方がしっかりやっていないかという、そういうことはなくて、本当によくやってくださっていて、御前崎のことも好きだと言ってくれる先生がとても多いのです。けれども、それでも成り立たないのは、この間鳴戸教育大の久我直人先生が浜岡中学校で600何人を前に生き方について講演をしてくださいました。子供たちは、本当によく聞ける子、話が聞けていて、真剣に聞いていたのですが、その先生と最後に話したときに、授業を見てくださったのですけれども、「授業についても教員はもっと頑張らなければいけない」。それは、もうわかっているのですが、やはり「ある一定の層に、非常に自分の生きていることに対する気持ちとか、それから人を信頼する気持ちとか意欲だとか、そういうことがもう学校ではやり切れない家庭の部分の問題を抱えている子がクラスにかなりの層いますね」ということ、「それがこの市の問題ですね」と言われて、私も非常にショックを受けたわけですが、わかってはいたのですが、全国100校近くを回っている先生ですので、そういったことを客観的に見てくださっておっしゃったので、それをやっぱり市全体で、教育の部分だけではなくて市全体で考えていく必要が、私は前からあると思っています。それをどうしたらいいかというのが、ちょっと私にはわからないのですけれども、先ほど市長さんが言われた子ども・子育て支援条例というのは、どういうものなのか教えていただけたらと思います。

○市長（柳澤重夫） スクラムスクールプランは、私は本当にいいと思っている。ただ、その家庭教育でありますとか家庭ですね、これは地域、こういったものは明文化としてどんなことを求めているのか、家庭に対して、言葉として、文章として。ただ、家庭も協力してくださいよと言っているだけなのか、では家庭教育としてはこういったことを支援してくださいよと言葉として言っているのか、それがちょっとわからないけれども、私が言っているのは、家庭については、家庭教育では子育て支援、これを家庭教育としては責務はこういうことをやってくださいよ、地域としてはこういうことをお願いしたい。老人クラブ、老人クラブとしてはそういった今までの生きた知恵とかありますので、そういったものを子供に授けてほしい、こういったことを明文化したいと思っている。企業には企業全体としてそういった取り組みをしてほしいということを明文化してお願いする。それで、御前崎市全体でそういったあらゆる青年部、壮年部でありますとか商工会、こういったところへあらゆる団体へそういった、御前崎市は今後こうやって育てていくんだ、こういったものを明文化したものを全部出したいと思う。そのための子育てとして子供の育成、こういった条例をつくって出したいなど、こういうふうにしたものだからしたわけ。ちゃんと言葉として家庭にも。もしそれが私が、もう選挙で言っておりますので、もしできたら是非とも子ども・子育て支援条例までには出したいと思っていますので、また皆さんでお考えいただければありがたいと思います。

○教育委員長（吉村 勝） 不登校の問題点を最初に言ったのであれけれども、大方の子は、本当に中学校の生活見ても非常に学校生活に適応していますし、大方の子というかほとんどの子は適応していますし、問題行動的なことも非常に少なくなっている、それはやっぱり非常にいろんな面での有形無形の教育は浸透してきているなということは、それは評価していいと思うのです。

私がちょっと思うのは、さっき幾つか組織的なことを言ったのだけれども、そういう中でもやっぱ

り子供さんあつての関心を持ってほしいというのは、それを持っている意識と、それから無意識の育てというか、よく言われた後ろ姿というのは、大人の後ろ姿、日常生活のあり方から子供たちは非常に言葉としては受け取らないけれども、姿として感化されていくということが随分あると思うのです。そういうところもやっぱり大事にしていく必要があるのではないかなと思います。

○市長（柳澤重夫） 実際家庭の中でお父さんからお母さんが働く姿というのは、子供見ていないのだよね。会社へ勤めていて、朝いつてらっしゃい、もうそれでお父さんが帰ってきて寝ているか、それは知らないけれども、そういった一生懸命汗を流して働く姿というのを見ていないと思うのだよね、子供は。それと、家庭のお父さんを見ていと友達になってしまっている。お父さんとお母さんが、親の尊厳とか、もうそういったものがないのだよね。怒っても聞かないのだもの、子供が。それではいけないと思う。先生もそういう威厳のある先生、ないとだめだと思うのだよね。先生には、怖いな、そういう子供が思うようなものでなければいけないと思う。家庭の中でもお父さんって怖いな、そういう子供でなければいけないと思う。本当に、子供同士で何かお友達みたいな、本当に見ていてやり切れない。

○教育委員（伊藤博之） ちょっといいですか。今の御前崎市の悪いところ、縮図が、子供たちに全部学校を見れば、そこでもう見えてしまうような感じが、今のお話を聞いているとあるわけですね。ですから、そういったところ、今非常に御前崎市自体が落ち込んでいるということもありますので、そういったことも一つの活力をつくるためにも、子供づくりをしっかりとしていけないと、いいものができていけないと思うのです。ですから、長い目でとにかく少しずつ地道に重ね上げ、そしてつくっていかないことには、何かいい方向にいかない、そういうような思いもちょっとしめます。

スクラムをとにかく組むことによっていろんなものがどんどん、どんどんいい方向に向かっていく。本当にこの内容を実践していただければ、いい方向に行くのではないかなと、非常に思いますので、是非力を入れてみんなで協力し合ってやっていかないと、何かだめではないかなという感じがします。今の家庭の先ほども家庭が崩壊していくような、そういうような家庭も結構ある。本当に一握りなのですけども、そういう一握りのところが何か足を引っ張っているようにも思いますので、そういったところを細かく噛み砕きながら対処していかないと、その先もどんどん、どんどん悪い方向に行ってしまうのではないかと思いますので、そういったところにぜひ力を入れてやっていければなというように思います。ちょっと取り留めの無い話になってしまいましたが。

○教育委員（田代富美子） ちょっと違う視点からでもいいですか。

○司会 はい。

○教育委員（田代富美子） ここの地域ということに関連して。

移動教育委員会というのをここ数年来いろいろやっている中で、社会教育に携わってくださっている方たちといった懇談をする機会があったのですけれども、ご自分が職業を持っていまして、そうではなくてご自分の得意な部分で子供たちを育てることでやってくださっている方のお話を聞いたときに、本当に情熱を持って子供たちを育ててくださって、笑顔で語ってくださるのですよね。子供を育てる。例えば、ダンスが得意だったらそういう分野で、学校以外の場所で子供とかかわってくださっている人たちって、こんなに一生懸命やってくださっている人が御前崎市にたくさんいるのだなということを強く思ったのですけれども、私の地域の人たちを見ていても、本当にお願いをすると、では子供のためなら気持ちよく学校にも出向いてくださるとか、本当に例えば地域のグラウンドゴルフの行事一つやるにしても、その地区の子供たちと一緒にいって、その子供たちと一緒に喜んでやってくださるというのは、私は何回か体験しているのですけれども、この地域の皆さんも、実はお願いするといろんなことというふうな、まだやや言われて、受け身的な部分も全体的にはあると思うのです。とそれをさっき市長さんがおっしゃった子ども・子育て支援条例というのが、私もどんなものになるのかなって夢を広げて期待をしているところなのですが、そういうようなもので、地域の人たちはこんな分野でやっていただけたらというのがうんと出てくると、もっと、そうかそこらまでもっとどんどんやってもいいのだなというような部分も出てくるのではないかなと。今まではやっ

できたことを、どちらかというと繰り返してやっていくという部分があったと思うのですけれども、そこが少し改善されてくる部分があるのではないかなというような期待も持ちますし、それから地域で、紅林さんもそうですが、青少年の合唱の指導をもう三十何年かしてくださっているのですけれども、私ただいまの委員会でもちょっと話したのですが、本当に30曲というような伴奏曲近いのをお一人で紅林さんやり遂げているのですよ。そういう姿は、親ではない部分の大人の、すごいな、あんなに頑張っている姿ってすごいなという感覚を、さっき言った背中であつたという吉村先生の無意識の姿というか、そんなことをやってくださっているし、私なんかも子供たちに茶道のお手伝いに行っているのですけれども、80、90近い先生が病を押してでも、子供のためなら私は参りますというような姿でやってくださるのを見てみると、やっぱり家庭が本当に根本的な躰をやってきて、園や学校で人とのかかわる力や本当に学ぶ力を育てて、そういったものが地域に行くといういろいろな人のいろいろなものがもらって、根づいていく部分があるなということを強く感じますので、1つはお願いなのですが、行政、行政がここに「リーダーとなって」って書いてありますよね。「園、学校、家庭、地域のリーダーとなってスクラムプランを積極的に推進していく」、もちろん教育委員会がそのリーダーなのですから、例えばその中の社会教育の皆さんから現場に足を運んでくださって、こうやって地域の人も子供や大人を育ててくれているのだということを肌で感じてくださると、また持ち帰って行政の中で話し合うことに熱が入ってくるのではないかな。つまり、それが愛情ですよ。そういった部分もやっぱりこの行政という部分でも頑張ってくださいと全体として、____学校の力強く大きな子供を視点に上げてくださったものにつながっていくのではないかなという気持ちがいたします。

○市長（柳澤重夫） こういうプランは、例えば家庭とかにも出すでしょ、勿論。

○教育長（篠田曉美） 今後ここでもう了承されれば、またパンフレットか何かにして出していきます。

○市長（柳澤重夫） ここに具体的に例えば忍耐力でありますとか思考力、ここに書いてあるよね。こういう力を身に付けたい、これは教育の場として身につけたい、そのためには家庭としてどうする、地域としてはこういったお願いしたい、っていうのも併せてやらないとこの読んでくださいというだけではなくて、実践目標を立ててやらないと、家庭でも地域でも。それを受けてやってもらえるような。でないと、この中身が伴わない。ですので、そういった文言を添えて、家庭ではこんなことをしてほしい、御前崎市としてはこんな人間を育てたいのだ、こんな教育をしていきたい、こういった子供さんに育てたい、そういうためには家庭ではこういったことをお願いしたいということを併せてやっていかないと、だから言葉だけでは、これだけではお願いしたいということ、どうかなと思うのだけれども、これはまたこれからの話ですけれども。

○教育長（篠田曉美） 1ついいですか。

スクラム運営協議会が始まって、正式に始まって今年2年目になるのですけれども、白羽小学校の校長が、大変これをどうしても進めたいということで、白羽地区では10日の日の挨拶運動を公民館長に働きかけ、社会教育委員に働きかけ、町内会長さんに働きかけて、10日の日に昨年の11月ごろからですか、かなり白羽地区で挨拶運動を地域でやってくれることになったのです。そうしたら、せんだって何かの会議のときに、子供たちから初めてありがとうという挨拶のときに言葉が出たといって、そういう報告を聞いたものですから、やっぱり大人が姿を見せることで子供たちは変わっていくものだと思うのですが、そのときにやっぱりどうしてもそういう会合をやると、子供は返事をしてくれないとか、子供は挨拶言っても必ず返事が返ってこないとかって、子供のせいにするのですけれども、実際は子供たちも悩んでいて、挨拶していいものかどうか、答えていいものかどうか、恥ずかしいかどうか。でも、大人だってコミュニケーションの下手な人はいっぱいいて、行政の中にもいっぱいいるし、会社の中にもいっぱいいるし、保護者の中にもいっぱいいるので、その辺の意識改革というのが、いつもいつも子供のせいというか、子供の悪いところは子供がなっていないものでといって、学校に言ってくるのですが、実は本当は大人の世界がどうなのかなというのは、私は市全体としても考えていく必要があるかなと思い、大それたことを言ってしまうのですけれども、やっぱり市全体

がもっと大人になってほしいと思うところもいっぱいあって、行政も挨拶一つとっても、もう少しで
きるようになりたいなって常々思っているのです。そういうところを子供たちに見せていきたいなと
思います。

この子ども・子育て支援条例というのは、こちらから提案すると、やっぱり上から目線になってし
まうものですから、こういった会合を地域の代表とか、家庭の代表とかってあわせて話し合ってい
かないと、こちらからは条例ですって渡した場合に、ちょっとどういうものかなって。

○市長（柳澤重夫） 私はこういうものはできるだけ発信していきたいと思っている。タウンミー
ティングも近い。だけれども、教育の場において言えることがあったらこういうことを言ってい
きたいと思っている。これは、一遍にできるわけではありませんので、皆さんと相談しながら、では家庭教育、
家庭の中ではどういったことがいいのか、文言として。地域にはどうか、企業などどういった
ことがいいのか。それは皆さんと相談しながらやらせていただきたいと思っております。勿論、一遍に
出すわけにはいきませんので、事前に、企業も何だこれはと言う人もあるかもしれません。企業にも
理解なしではしていかなくてはならないなと、そのうえで出したいなと思っています。

○教育委員長（吉村 勝） 今白小のことがちょっと話題になったのだけれども、具体的なことで、
いいことと言うと、白小の子供の中には車が走っていて自分が横断しようと待っていると、車が止ま
ってくれて、自分が横断できると必ず車に向かっておじぎをするのだよね。こういうような姿とい
うのは、やっぱり学校教育で、前の校長さんにちょっと聞いたら、学校で指導しているのかねと言っ
たら、指導はしていないと。やっぱりそれは家庭の中で育ったり、あるいは地域の中で育ったり、そ
ういうようなことが、ああいうふうに子供の姿にあらわれているのかなって思うのです。ああいう姿が
どこでも見られるようになると、もっともっと学校も変わるし、街も変わってくるのかなと思います。

○市長（柳澤重夫） それは、多分アメリカ式の方法で、日本は、もし車が来て子供たちが親を見て、
子供がいて、車が通り過ぎると、親が車に対して危ないでしょうということで、日本のお母さんは、
そうではないので、よく、それやったら相手の車に対して申し訳なかったというのが向こうのルール
というかマナーというか、です。その日本の家庭の中では、そういったルール、マナーを教えてな
いのだね。教えていくからそういうことになるのかもしれない。そういったものについては、もう
家庭で教えるしかないのだよね。社会のルールというのは。マナーというのは。学校ではそこまで教
えられないものね。そういうところも含めて言葉としてやっていけばいいかなと思うのだけれども、
これはもし条例の中でやれるのなら。

○司会 ありがとうございます。

そろそろ時間も迫っておりますけれども、基本的には子供を育てていくという中で、ほとんどの子
供さんは、本当にすくすくと育っているというような状況だと思っています。ただ、その中でも少人
数の方ではありますけれども、支援が必要なご家庭があり、お子さんがいるというのが事実なのだろ
うと思います。そういったところでスクラムを組んで、より健やかに育っていただくような教育を進
めていきたいと思っています。また、それで教育委員会だけではできかねますので、市長部局、今回市民
部長さんにもご参加をいただきましたけれども、子供に関する健康づくりですとかこども未来課等も
ございますので、市長部局ともスクラムを組んで、教育を進めさせていただければと思っております。
よろしくお願いいたします。

○市長（柳澤重夫） 教育というのは皆さんが悩んでいるように、今に始まったことではなくて、こ
れずっと昔からそうです、いつまでたってもこれは変わらないと思う、社会も変わってくるので、昔、
早稲田の応援歌を作った人が言ったのは、タケノコのように伸び伸びと育たぬものか、人間の子は。
だから、昔から育たないのだよ、真っすぐには。だから、どこでも悩みがあると思う。ですので、そ
れを育てるのが教育でもあるし、ですので、これから悩みもあるけれども、みんなして力を合わせて
御前崎市の子供たちを社会人として、いやすごいな、御前崎市の子供はというような子供に育てて
いただけるような、そういったものをやっていきたいと、皆さんで力を合わせて、思います。

○司会 ありがとうございます。

それでは、次に進ませていただいてよろしいでしょうか。

(2) 今後の開催予定について

○司会 今後の開催予定につきまして、事務局から報告をさせていただきます。

○事務局 それでは、今後の開催予定についてご説明申し上げます。

本年度、今回を含めまして全部で3回予定をしております。次回第2回ですが、10月14日金曜日です。午前9時30分から予定をしております。第3回ですが、年が変わりまして1月18日水曜日でございます。時間も同じく9時30分から予定をしております。詳細につきましては、また近くなりましたらご案内をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

それでは、1点報告をさせていただきます。今年度浜岡中学校の改築に向けまして、検討委員会を開催する予定でおります。第1回目につきましては、現時点6月9日の日に開催をする予定で進んでおりますので、よろしくお願いいたします。

以上、報告でございます。

それでは、最後に市長さん、何か。

○市長（柳澤重夫） いいです。

○司会 ありがとうございました。

5 閉 会

○司会 それでは、ご協議ありがとうございました。

以上をもちまして第1回の総合教育会議を閉会とさせていただきます。

最後に挨拶をいただきたいと思います。

(起 立)

○司会 ありがとうございました。

(相互に礼)